

轍 2020

なかよしさいくる



目次

山陰同期ランの記録	3年 青木
-----------	-------

NORIKURA × AUTUMN	4年 岡
-------------------	------

山陰同期ランの記録

3年 青木



はじめに

「何があるのかわからない」「どっちが右かわからない」「参議院と区別がつかない」など、国民の 99%から日々いわれのない侮辱を受け続けている山陰。東京で普通に大学生活をおくっている限り、自転車で走ることはないでしょう。だからこそ、走ってやろうじゃないか。

紀伊半島でルートを引いたらあまりにもアップダウンが厳しかったことから代わりに選ばれた山陰で、NC2年最後の1週間を走り抜けてきました。

【参加者紹介】

青木：筆者。実は夕食のことを何も考えていない。

大澤：ロン毛。坂で勝負を仕掛けるが、すぐタシる。

加賀：ゴリラ。ヒトと仲良くしたいのに、恐れられてしまい寂しい。

武縄：蛮族。温泉津(ゆのつ)を「おんせんつ」と読んで頑なに譲らない。

富田：早起き。「サハラ」と聞くと急に元気になる。

西村：シェフ。全身の穴という穴が喋っている。

吉田：温泉狂。写真を撮りすぎてスマホのストレージが初日に埋まった。

渡部：わたちゅん。難病「JALにしか乗れない病」の患者。

Day 0：神戸～鳥取

九州からのフェリーを降り、朝の六甲アイランドから山陰旅行ははじまりました。この日は夜に鳥取で集合する予定なので、日中は自由に使えます。早速自転車を畳んで輪行開始。



4本の電車を乗り継いで、12時前に兵庫県丹波市の石生(いそう)駅にやってきました。

地理に詳しい方であればなんとなく行き先がわかったでしょう。本州は、背骨のように走る山々によって大きく日本海側と太平洋側に分けられています。中央分水界と呼ばれる「背骨」の中で最も標高が低い地点、それが「石生の水分れ」なのです。ここでは標高95mの峠を越

えるだけで山陽と山陰を行き来することができるのです。

駅から自転車をまたがり、ものの5分で「水分れ公園」に到着しました。ここでは、一本の川が二手に分かれ、日本海と瀬戸内海に向かっていく様子を観察することができます。

早速山陰に一步足を踏み入れたわけですが、ここからは一旦山陽に戻り、次のスポットを目指します。中国地方らしい緩い山に囲まれた谷を、追い風に乗りながら南に25kmほど下っていくと、「日本へそ公園」に到着です。



ここは日本標準時子午線の東経135度線と、北緯35度線がちょうど交わるポイントで、左の写真の中央にある標石の中心点がそれです。それだったのですが、世界測地系が導入されて緯度経度の基準がずれたことで、今では400mほど南東に「平成のへそ」ができています。



山陰同期ランの記録

電車の時間が迫っていたので平成のへそは見ず、5kmほど走って西脇市駅に向かいました。ここで再び輪行し、普通列車を乗り継いで姫路駅に行きました。



← 駅を出て真正面の位置に姫路城が見渡せる景色がめちゃくちゃすき(語彙力喪失)

↓ もう一つの姫路名物、中華麺を使ったえきそば



姫路からはいよいよ鳥取に向けて特急列車に乗り込みます。

ここから先は鉄分が濃すぎて一般の方には危険なので薄めておきますね。

やっぱり HOT7000 系はかっこいいですね。制御付き自然振り子方式は廃れつつありますが、1°や 2°の空気パネ傾斜でも得られない高揚感があってとても好きな車体傾斜方式です。規格な智頭急行のエンジンも唸りをあげ、走りもフル稼働で遊ばずに楽しむことができました。あっという間に鳥取駅に着きました。

鳥取砂丘のイメージしかなかった鳥取駅に降り立ち、街が想像以上に栄えていることに驚きを隠せませんでした。さながらピラミッドしか知らずにカイロに着いた観光客の気分です。行ったことないけど。同じ列車で到着した富田・吉田と合流して輪行を解除し、駅からすぐの宿にチェックインします。道中、新しく買った自動点灯テールライトとサドルバッグとアーレンキーがいっぱいついてるアレを自慢しまくりました。

到着の遅い加賀と西村以外の 6 人で高そうな料理屋(カレーライスが有名らしい)に行き、ハヤシライスを食べました。その後宿に戻って全員集合し、各自就寝しました。

【宿・風呂情報】

ドロップイン鳥取 2600 円 (朝食 300 円) カプセルホテルなのでシャワーのみ。

山陰同期ランの記録

Day 1：鳥取～三朝

【班分け】

a 班：武縄・富田・西村・吉田

b 班：青木・大澤・加賀・渡部

【ルート】

鳥取～鳥取砂丘～中国庭園～三朝

59.6 km



山陰旅行 1 日目の目玉はなんといっても鳥取砂丘です。鳥取市街から 20 分ほど走り、はじめて訪れた鳥取砂丘は想像をはるかに超える大きさでした。自分がいかに鳥取県を舐めていたか、痛感させられました。さっそくビンディングシューズを長靴に履き替えて砂丘に踏



み入り、一行は海を目指してひたすら行進していきます。写真では緩やかに見える砂の丘陵も、いざ登ろうとすると砂に足を取られてかなりハードな運動になりました。

←NC ポーズ、ついに完成

↓ 棍棒を振り回す蛮族の戦士



↑ 大相撲鳥取場所

鳥取砂丘を楽しみ尽くし、砂で埋め尽くされた長靴を洗って出発しました。途中、大きな池で写真を撮ったりしながら(他に見るものがないからではない)国道 9 号線を進み、道の駅 神話の里白うさぎでお昼を食べることにしました。a 班はす





なば珈琲に行ったようですが、我々b班は普通の食堂に入り、海鮮丼を食しました。日本海の荒波を眺めながら海の幸に舌鼓を打ち、早くも山陰に満足してきましたが、旅程はまだ6日残っています。道の駅の裏に鎮座する白兔神社にお参りし、先を急ごうと思ったものの、この調子では宿に早く着きすぎることが判明(見るものがないからではない)、途中に中国風庭園があるということで、そこに寄ることにしました。

アップダウンの続く海岸沿いの国道を走っていきます。途中、大きな池で写真を撮ったりしながら15時ごろに中国庭園「燕趙園」に到着しました。正直ほとんど期待していなかったのですが、綺麗に整備されていて散策を楽しむことができました。

どちらかという和を感じさせる丸窓→

園内には小さなホールがあり、本場中国からやってきた雑技団がパフォーマンスを披露してくれました。意外にもなかよしさいくる一行以外にも観客がいました(1組)。公演が終わり建物の脇から帰っていく雑技団のみなさんを横目に我々も庭園を出て売店に入り、中国茶と点心で一服しました。



燕趙園から三朝までは10kmあまりの距離ですが、一旦倉吉に寄って名物の打吹公園だんごをいただくことにしました。

夕食の時間が近づいて空腹だったこともありフードファイトの様相を呈しましたが、素朴な甘さの三色だんごを心ゆくまで味わいました。



夕食は三朝温泉の宿近辺で探そうと思っていたのですが、温泉街に飲食店は少なく、議論の結果倉吉で食べていくことにしました。倉吉では「牛骨ラーメン」が有名で、いくつか定休日に阻まれながらも美味しいラーメンを出す店を見つけ入ることができました。

←牛骨ラーメン

近くのスーパーで夜食を調達し、宿に向かいました。

【宿・風呂情報】

清流荘 4900円 大浴場は薄暗く古さを感じたが、離れにある露天風呂は雰囲気◎

山陰同期ランの記録

Day 2：三朝☁～皆生☁

【班分け】

山派：青木・大澤・加賀・武縄・西村

海派：富田・吉田・渡部

【ルート】

三朝～(蒜山高原/海沿い)～皆生

91.5 km(山) / 61.6 km(海)



三朝の朝は町歩きから始まります。加賀とともに早起きし、温泉街をぶらりお散歩しました。河原にあった足湯に浸かり、この上なく幸せな朝を迎えることができました。散策中に非常に政治的な主張の強い建物を見つけて写真を撮りまくったのですが、旅行記のトップを飾るには刺激が強すぎたので、ここではいかにも爽やかな足湯の写真をお楽しみください。

この日は二手に分かれ、山あいの蒜山高原に向かう班と海沿いを走る班を作りました。もともと蒜山に行く予定はなかったのですが、前ラン中に調べたらなかなか魅力的な場所であることがわかり、急遽行き先を変更しました。加賀は前ランで行っていたらしく、二度手間になってしまいました(下見ありがとう)。

二手に分かれる前にまずは倉吉の市街地に行き、蔵の街並みを散策しました。先も長いので少ししか滞在できませんでしたが、古い街並みっていいですねえ。

風情あふれる倉吉の町並み→

倉吉と蒜山の間には山陽と山陰を隔てる犬狭峠が立ちはだかります。10kmほどゆるい登りをのんびりと進み、本格的な登りに入ったところで加賀がアタックを仕掛けてきました。僕は「和気藹々と」「なかよく」登りたかったのですが、降りかかる火の粉は払わねばなりません。正々堂々と受けて立ち、5.3%、7kmの登りを舞台に26分間の死闘を演じ、そして敗れ去りました。



山陰同期ランの記録



復讐を神に誓い、いよいよ蒜山高原に入ります。広々とした牧場や畑の中を進むアップダウンからの景色はまるで北海道を走っているような雄大さで、サイクリングにはうってつけでした。

←ジェネリック北海道

いい景色を見かけては立ち止まって写真を撮りつつ、ゆっくりと蒜山高原の北側を東から西になぞり、ひるぜんワイナリーで昼食を食べることにしました。ビーフシチューやローストビーフなど、思い思いに蒜山の味覚を楽しみ、試飲こそできませんが海班のためのお土産にワインを購入して次に進みます。

ここまできた勢いで蒜山高原全体を一周してもよかったのですが、満腹になると走るモチベが薄れるのが世の常。5kmほど戻ったひるぜん高原牧場でアイスクリームだけ食べてさっさと山を降り、温泉に入ることにしました。

毎度のことながら漢気じゃんけんを開催し、無事に無料のアイスクリームをせしめました。ワイナリーで買ったワインのアテにチーズも買い、腹も背中も蒜山に満たされました。

内海峠のちょっとした登りをこなせば皆生までは川に沿って下っていくだけです。ダムや道の駅で小休止しつつ、無心で走り抜けました。山が開けて米子平野に入ると、右手に雄大な大山が見えてきます。日野川を河口まで下りきり、美保湾に突き当たったところが皆生温泉の入り口です。

海派とも合流し、風呂に入ってから夕食をとることにしました。我々がヒルクラという名の戦いに明け暮れ、ワイナリーで酒池肉林に溺れている間、海派は3時間待ちという名の戦いに明け暮れ、生クリーム池いちご林に溺れていたようです。

湯船に浸かって夕日を眺め、赤い照明が妖しい雰囲気醸し出すレストランで洋食を食べて2日目の行程は終了しました。

【宿・風呂情報】

皆生シーサイドホテル 6000円 ガラス張りの大浴場は清潔感◎だが露天風呂の眺めは△



↑生クリーム池いちご林

山陰同期ランの記録

Day 3：皆生ㄣ～玉造ㄣ

【班分け】

犬班：大澤・富田・西村・渡部

猫班：青木・加賀・武縄・吉田

【ルート】

皆生～境港～松江～玉造

54.2 km



3日目は米子・境港・松江と山陰で最も栄えているエリアを走ります。境港の海の幸や松江の城下町文化を楽しむ充実した1日になりました。

まずは弓ヶ浜半島をひたすら北に向かって走り、約20km先の境港を目指します。平坦で信号は少ないものの、右手には防砂林が延々と続き交通量の多い国道で、湘南のR134を思い出しながら走っていました。

1時間弱走り、境港についたタイミングで吉田が宿に財布を忘れていたことが発覚。つまらん道を走らされてストレスが溜まっていたこともあり、僕と加賀が宿まで爆走シャトルランを執行し、トニーマルティンとデヘントの逃げのようなペースで走りきりました。境港に戻るとちょうどお昼時。残った2人が調べておいてくれた回転寿司屋に入店して海の幸に舌鼓を打ちました。



境港からはベタ踏み坂として知られる江島大橋を通り、中海の真ん中を横切って松江に向かいます。途中の大根島には「日本一低い火山」があるらしく、武縄が死ぬほど行きたがっていたので行ってみることにしました。日本一低いのであっさりと登り切れてしまい、火山といっても今は活動していないので火口の位置すらわからず、その辺の丘と変わりませんでした。

←大根島山頂、ヨシ！

中海を渡りきり、小さな峠を越えるとすぐに松江の市街地に入りました。まずは日本に5つしかない国宝天守の一

山陰同期ランの記録

つ、松江城に登城します。



↑ 威厳溢れる漆黒の天守

← 必死の形相で城に攻め入る蛮族

内部は例に漏れず天守閣の構造や歴史の解説が充実しているので、松江に行ったら是非天守閣に入ってみてください。解説の内容は全て忘れましたが文化財保護に貢献できますよ。

松江城を攻略し、本丸を蹂躪し尽くした後は城下町に移り、戦利品の抹茶と和菓子を味わいました。さらにお土産屋で戦利品の地酒と宍道湖特産のしじみ佃煮を買い、意気揚々と玉造温泉の本陣に引き揚げました。



何よりも温泉を優先するなかよしさいくる一行のこと、宿についた途端に風呂に入り、コインランドリーに走って洗濯も済ませました。その後、夕食を求めて徘徊する羽目になるとも知らずに……

三朝の時点で片鱗を見せていた僕の夕食軽視傾向がここにきてついに火を噴きました。玉造温泉にも飲食店はいくつかありますが、そのいずれもが定休・高そう・地元向けっぽいと、入れませんでした。夜の温泉街を飢えた若者が徘徊する治安の悪い状況になり、侃々諤々の議論の結果最寄りのコンビニで調達するというしょうもない結果になってしまいました。痛い目にあってはじめて、温泉宿には飲食店が少ないという教訓を得たのでした。

【宿・風呂情報】

ホテル玉泉 7900円 大浴場は広く、露天風呂も良い。玉造温泉には高い宿しかない。

山陰同期ランの記録

Day 4：玉造^{ゆづり}～出雲市

【班分け】

1号車：青木・大澤・吉田・渡部

2号車：加賀・武縄・富田・西村

【ルート】

玉造～出雲市～ドライブ

??? km



ここまで晴れが続いてきた山陰にもついに雨雲がかかりました。前の日から雨が降りそうなことはわかっていたのでレンタカーを予約し、この日はドライブで出雲を巡ることになりました。なかよしさいくるよりottoーサイクル。

青木・加賀・富田は早めに宿を出て出雲市に向かい、レンタカーを調達。1時間後の電車で残りがやってくるまでの間、日御碕までのドライブを楽しみました。

後続とも合流し、2台に分乗してまずは王道中の王道、出雲大社に参拝しました。降りしきる雨の中、傘を持たない8人はみすぼらしい姿を神前に晒し、そそくさと大社を退社しました。

出雲と聞いて次に出てくるのはもちろんそばでしょう。途中、旧大社駅に立ち寄りつつ出雲そばの名店(Google マップ調べ)「羽根屋」に入りました。大正天皇にも献上されたという伝統の割子そばが美味しくないわけがありません。



エンジンの力を借りて出雲の要点を手早く抑え、今度はややマイナーなスポットに向かいました。

天岩戸やヤマタノオロチの伝説で知られるスサノオノミコトが祀られた須佐神社は、出雲市の市街地から20 kmほど入った山奥に鎮座しています。神社のそばにある洞窟とあわせて訪問するつもりでしたが、洞窟は閉まっていたので入れませんでした。

須佐神社自体は祭神のネームバリューとはかけ離れたこぢんまりとした神社で、正直期待

山陰同期ランの記録

外れでしたが、近くのコンビニには面白いものがありました。スサノオアイスヤークン入り。「ヤークン」はジャガイモのような見た目で甘みのあるキク科の根菜らしいです。アイスクリームにととても合うとは言いませんが、ヤークンの優しい甘みが感じられて美味しく食べることができました。

結局、往復1時間以上かけたドライブの成果は神社と謎の野菜だけでしたが、運転好きな僕は十分に楽しむことができました。

自転車であればこれで今日は終わりになるのですが、疲れ知らずのエンジンはペダルを緩めません。朝に早起組が通った日御碕への道がなかなか風光明媚だったので、改めて行ってみることにしたのです。

朝よりも強まった雨風を受け、荒れ狂う日本海を横目に再び日御碕にやってきました。灯台は立ち入り禁止で入れず、壁が赤く塗られた神殿が印象的な日御碕神社に参拝したものの、雨風が強すぎて速攻で撤収。雨の日はサイクリングもできませんが、ドライブも満喫というわけには行きませんね。

出雲市街に戻る頃には日も暮れ、レンタカーを返して宿に戻りました。宿代の関係でダブルルームになったことを詰られる微笑ましい一幕もありましたが、無事チェックインし飯と風呂の時間です。昨日の悲劇を受けて食事のハードルが下がりきっていた僕は同室の加賀と2人ですき家に入り、チー牛デビューを果たしました。特盛でも温玉付きでもないですが……

連日のワインや地酒で肝臓を痛めつけていたこともあり、今日は休肝日と決めて宿に帰った2人は、エレベーターで「ビール一杯無料サービス」の文字を見つけてしまいました。3秒ほど悩み抜いた末に出た結論は「無料のアルコールはノーカン」。「トルネード」という特殊な機械でジョッキの底から注がれたビールは泡もきめ細かく、風呂上がりの体に染み渡る人生最高の一杯になりました。

1階ロビーではラーメンの無料提供もあり、この宿を定宿にすると固く誓いました。

【宿・風呂情報】

ドーミーイン出雲 4800円 露天風呂・サウナ完備。朝サウナ含めて4セットこなした。



Day5 出雲市～温泉津

【班分け】

梅班:青木・武縄・吉田・富田

桜班:西村・加賀・大澤・渡部

【ルート】

出雲市～石見銀山～温泉津

71.5 km

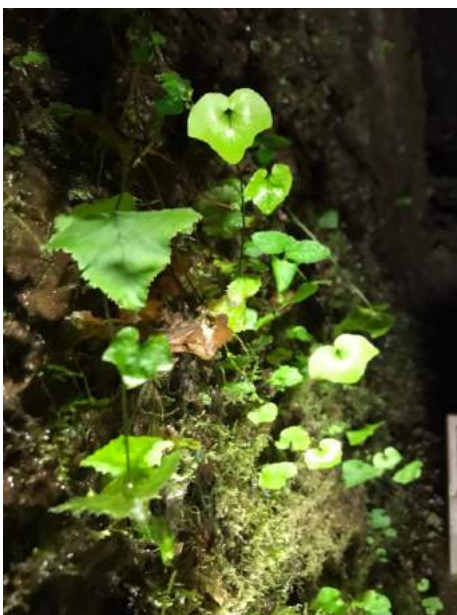


5日目は山陰が世界に誇る石見銀山を目指します。夕方からは雨が予想され、途中見るものもないので先を急いで走り続けました。多岐の道の駅に寄って朝食がてらパンを食べましたが、それ以外は大田に向けて国道9号線を西進するのみ。大田からは内陸に入って山を越え、昼頃に石見銀山に到着しました。

まずは「カフェ住留」で昼食をとります。食べてばかりですが、山陰では食べるか漕ぐかダジャレを言うかしかやることがないのです。

体がカロリーだけを求めていた。→

昼食のあとはよいよ銀山見学です。石見銀山には「間歩」と呼ばれる銀鉱石を掘るためのトンネルが縦横に張り巡らされており、その一部に入ることができます。



カフェの駐輪場に自転車を置いて鉱山集落を歩き、間歩のひとつに入りました。間歩の中は薄暗く、壁は手掘りらしく凸凹した岩肌が露出しています。外の光が入ってこないため植物は生えないのですが、観光用に照明が灯った場所の下には小さな草が息づき、幻想的な雰囲気を醸し出していました。

手掘りの間歩から分岐する、近代に掘られたコンクリ間歩を通して地上に戻ると、すでに雨が降り始めていました。東屋でしばらく雨宿りしましたが、天気は下り坂で回復しそうにありません。濡れることを覚悟で少しでも早く宿に向かうことにしました。

山陰同期ランの記録

晴れていれば歴史ある石州瓦の街並みをのんびり散策したいところでしたが、さすがにそうもいかず、雨に濡れながら最後の 15km を必死で走りました。

宿に到着して速攻で風呂に入り、鬼門の夕食タイムを迎えました。漁港と一体になった小さな温泉街である温泉津では、玉造よりも夕食チャンスが少なく、居酒屋一軒のほかはスーパーが 2 つあるのみでコンビニすらありません。この日の宿が古民家を改装した長屋風の建物だったこともあり、スーパーで食材を買って自炊することにしました。

僕自身は食材の買い出しくらいしかできませんでしたが、シェフ西村とシェフ加賀が美味しいカレーを作ってくれました。西村はさらに鶏肉とトマトの缶詰を買ってきてチキンソテーも作ってくれました。

↓すしざんまい



↑シェフ 2 人とラーメン屋店主武縄

↓手作りカレーライス



雨に降られ夕食にも困る行き当たりばったりな 1 日でしたが、シェフのおかげで無事に終わることができました。

【宿・風呂情報】

輝雲荘 5800 円 露天風呂は檜。薬師湯も行きたかったがあまりの疲れに断念

山陰同期ランの記録

Day 6：温泉津^ゆ～萩

【班分け】

自走班：加賀・富田

輪行班：ほか全員

【ルート】

温泉津～(輪行/自走)～萩

160km / 10km



この日は1日萩観光に費やしました。そのために朝6時に宿を出て始発列車に乗り、4時間かけて150km先の萩まで輪行しました。輪行を好まない種族はさらに早起きして自走していましたが、一緒に走っていたわけではないようです。

前日の疲れもあり、列車に揺られながらうたた寝しているとあっという間に萩に到着しました。輪行を解除し、まずは世界遺産の萩反射炉

に向かいました。

萩反射炉は静岡の韮山反射炉とともに現存する、数少ない幕末の反射炉です。あくまでも試作の炉であって、品質の良い製品は作れなかったようです。反射炉のまわりにはほぼ満開の桜が咲き乱れていました。

続いて、「本家」松陰神社に参拝しました。世田谷の松陰神社と同じく吉田松陰を祀った神社ですが、境内には松陰の生家が保存されており、彼が幽閉されていた3畳の部屋を見ることができました。



松陰神社では瀬祭も調達し、橋を渡って萩の中心街が位置する三角州に入ります。山口といえばふぐ、ということで、中心街の「明己悟(あみーご)」という怪しげな店に入りました。ウニとイカの乗った海鮮丼が400円、ふぐ刺しが150円と、裏社会との繋がりが心配なほどの激安価格でした。味が悪いわけでもなくみんな満足していた

山陰同期ランの記録

のですが、大澤のカツカレーだけ異常に提供が遅く、彼だけは文句タラタラでした。

萩は近代になってもほとんど開発の手が入らず、江戸時代のままの街割が残っています。古い建物も街のいたるところにあり、2 km 四方の三角州の中で一日中楽しむことができました。

明己悟を出て、まずは三角州の最上流部にある旧湯川家屋敷を見学しました。ここは川の水を屋内に直接引き入れる特徴的な構造が見どころで、周りの街並みも含めて江戸時代の雰囲気の色濃く残っていました。

再び三角州の中心に戻り、藩校を前身とする旧明倫小学校に行きました。ここは萩の歴史を展示する資料館にもなっています。

明倫小学校で自走班の2人と合流したあとは、すぐ裏にある武家屋敷に向かいました。高杉晋作の生家からほど近いカフェに入り、萩の特産品である夏みかんを使ったソフトクリームやケーキを食べました。



わたしは日本庭園に興味があるらしく、カフェのすぐ隣にある菊屋家住宅を推してきました。僕も入ることにしたのですが、他の6人は入場料が高いと思ったのか入らず、先に宿に向かいました。

菊屋家は江戸時代の豪商で、屋敷内には伊藤博文をはじめとする教科書に乗るレベルのみなさんのゆかりの品がゴロゴロ所蔵されていました。閉館間際でしたが、特別公開中だった

奥の庭にも入れてもらい、とても興味深い見学ができました。

遅れて宿に向かう道中も江戸時代の街並みに囲われ、萩という街のポテンシャルを感じずにはいられませんでした。

宿で再び集合したあとは街中の日帰り温泉に入り、温泉からほど近いジョイフルで夕食を食べました。夜には買っておいだした獺祭を開け、最高ランクの日本酒を堪能しました。

【宿・風呂情報】

萩ユースホステル 3530円

日帰り温泉を利用したホテルがコロナ倒産していた……



山陰同期ランの記録

Day 7 萩～山口

【班分け】

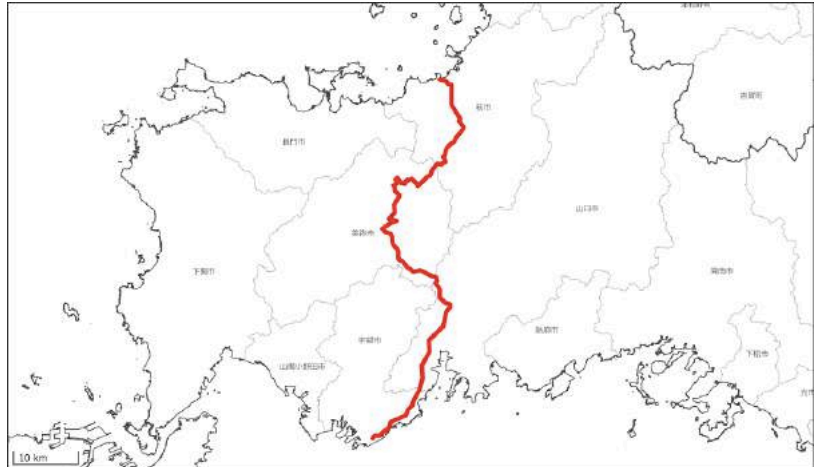
JAL 班：大澤・富田・渡部

SFJ 班：青木・武縄・西村・吉田

【ルート】

萩～秋芳洞～山口宇部空港

86.8 km



最終日は秋吉台を通過して空港で解散です。早い時間の新幹線で帰る加賀だけ朝早く出発し、残りは飛行機の時間に合わせて2班に分かれました。昨日巡りきれなかった萩の街が名残惜しかったので、僕は1人早起きして街中をサイクリングしてから出発しました。

ついに山陰を完全に出て中国山地を越え、山陽に入ります。火山活動や浸食作用によって作られた複雑な地形も手伝ってアップダウンの連続で、苦労しながら秋吉台に到達しました。

秋吉台を周遊するカルストロードを走り、石灰岩がむき出しになったカルスト地形の特徴的な景観を楽しみました。

木が生えていない一面の草原は自然にできたものではなく、毎年の上焼きで保全されているらしいです。今年は2月に上焼きが行われたらしく、確かに灰が残っていたような気がします。

カルストロードを駆け下り、いよいよ秋芳洞を探検します。日本で最も有名と言ってもいい鍾乳洞で、中の写真も見たことがありましたが、やはり生で見ると迫力が違いますね。千枚田のように重なった池や、オリエント建築のような石柱を見ては感動していました。千枚田もオリエント建築も見ただことないけど。



山陰同期ランの記録



最後の観光スポットも終わり、あとは飛行機に間に合うように空港に行くだけです。乗る予定の便は 20 時発で十分余裕があったので、残る峠をのんびり越えていきました。武縄は新幹線で帰る予定だったのですが、新山口駅を過ぎても付いてきます。阿知須駅に強い執着を示していたのですが、蛮族の考えることなのでよくわかりませんね。

結局、武縄は阿知須駅から輪行して帰っていきました。ここから山口宇部空港までは平坦な道走るだけですが、単調な幹線道路をゆく最後の 20km は距離以上に長く感じられました。

17 時前に山口宇部空港に到着すると、19 時の JAL で帰る JAL 班の 3 人が疲れた顔で飛行機を待っていました。東京に帰ったらサハラに行こうと言うと、案の定富田のテンションが爆上がりし、めちゃくちゃ元気になりました。



空港のレストランでカレーを食べ、3 人を乗せた JAL の飛行機が飛び立つのを展望デッキで見届けたあと、お土産を買って搭乗口に向かいました。山陰ではやけにカレーばかり食べていたような気がしますね。

1 時間半は体感 10 分で過ぎ、羽田空港で西村・吉田とも別れました。羽田からの最終ランナーはいつもリムジンバスです。自転車を担いで家に帰り、僕の大学 2 年生は終わりました。

【宿・風呂情報】

実家 0 円 シャワーを浴びる元気もなく寝た。

山陰同期ランの記録

おわりに

最後まで読んでくださりありがとうございます。「山陰には何があるのか」「どっちが右なのか」「参議院とはどう違うのか」ご理解いただけただけでしょうか。美味しいご飯と温泉には事欠かない山陰を、みなさんもぜひ旅してみてください。温泉宿に泊まる時は食事をつけるのを忘れずに。

そして、至るところで至らない僕の運営を支え、一緒に旅行を楽しんでくれた同期のみんな、ありがとう。次は九州にでも行きましょう。能登半島も行きたい。あと東北も。もちろん北海道もいいね。沖縄リベンジもあり。

本文中ではあえて COVID-19 について触れませんでした。当時岩手と頂上決戦を繰り広げていた山陰でもその影響は多少なりとも感じられました。東京がロックダウンされたら山陰に住むしかないと言われ、志村けんさんの訃報も山陰で知りました。

この山陰旅行を最後に、昼間は自転車に乗り、夜は酒盛りをするような楽しい旅行はできていません。宇部や羽田で別れてから一度も会っていない同期もいます。このパンデミックが収束し、ふたたび夏合宿や同期合宿ができる日が来ることを願ってやみません。

改めて、最後までお付き合いいただきありがとうございました。またどこかでお会いしましょう。



※本文中のルートマップは地理院地図を利用して作成しました。

NORIKURA x AUTUMN

4年 S.Oka

まだ東京では秋の入り口にようやく差し掛かっていた 10 月頭、一足早く四季を感じに行こうと乗鞍高原へ行きました。当初は群馬の尾瀬でハイキングと聞いていたのですが、私が数日前にチャリダーの乗鞍特集を見た影響もあり、気が付いたら乗鞍でヒルクライムに代わっていたこと、宿泊も検討したものの、検討した時間がすでに遅く、世は Go To 乗鞍ですすでに高級宿しか残っておらず、日帰り強行 Travel となったことは先に述べておきます。

1. 集合

千葉県に住む私は朝 5 時に家を出発し、車で新宿駅へと向かいました。早朝の京葉道路は空いている…ことは無く、キャンプやアウトドアなどのスポットを目指す人々で意外と車が多かったです。



新宿駅で泉田と白崎さんをピックアップして、いざ乗鞍へ出発です。セレナ輪行では、いつもの電車輪行とは異なり、前後ホイールを外すだけで三台は余裕で載せられるのでとても楽ですね！

2. なかよしドライブ

何も特に変哲ありません。おとなしく中央道⇒長野道で松本 IC を目指します。3 時間半くらいでしょうか。途中甲府あたりとみどり湖あたりで休憩をはさみました。

松本 IC 降りてからの道は結構酷ですね。特に新島々駅から乗鞍高原までの区間はがけっぶちを走る区間が多く、運転もなかなかテクニックが要求されました。これを自転車で行くのは…なかなかスリリングどころか、怖いです。

なお、ツアー客などは少ないのか、観光バスが少なかったのが唯一の救いでした。

10時半ごろに乗鞍観光センターに到着し、輪行解除したのちにゆっくりと登り始めました。
すでにふもとの時点からかなり木々が色づき始めていました。



ここからは文章よりも写真で伝えていきたいと思います。

3. 乗鞍エコーライン・ヒルクライム

約 20km の距離で、およそ 1260m の獲得標高です。ゴール地点の標高は 2720m で、日本の自転車走行可能な道路で最高峰となります。そのため、開通時期が限られていて、毎年 7 月 1 日～10 月 31 日までが通行可能です。また、高山環境に配慮して、一般車両は通行禁止、観光・路線バスとタクシー、自転車のみが通ることができます。普段であればきっと観光バスが多く走るかと思いますが、ここもふもと同様に少なかったため、とても自転車にとっては走りやすい環境でした。

スタート地点



ちょっと登ったところ



募金も忘れずに、三本滝レストハウスを眼下に見下ろします



徐々に紅葉エリアに



5%~15%の斜度が繰り返してやってきます



標高を増すにつれて色がきれいになっていきますね。

途中きれいなスポットが多いのでたくさん写真を撮りながらのヒルクライムです。
激アツなヘアピン!



標高 2000m を超え、だんだん高山限界に近づき、植生も変わってきました



くねくねとした道が続きます



いよいよ雲と変わらない標高に達してきました



乗鞍っぼくなってきましたね



そしていよいよ



ゴールです!

私は初岐阜県に上陸しました

この日、エコーラインは開通していましたが、高山側に降りる乗鞍スカイラインは災害の影響で閉鎖中でした。

来年9月に開通するそうです。岐阜側からも攻めてみたいですね!

豊平で小休憩したら、今度は登山することに。

私はてっきり20分くらいで登れると思っていましたが、実際は往復1時間以上の最高峰に行きました



ビンディングですが石の転がる登山道を進みます

すでに午後3時近くです、、、間に合うのか?



ヒルクライムの後の登山ですすでに足は消えかかっていますが、振り返ると超絶景が。

中央に見えている建物は旧？東大宇宙線観測所らしいです。

もともとは旧陸軍が空気の薄い場所でエンジンの燃焼実験をするために乗鞍への道が切り開かれたとか。



また別角度から



頂上到達!

乗鞍岳の最高峰、剣ヶ峰は標高 3026m です。

今日一日で標高約 3000m ほど登りました。(自宅は海拔 10m とかです)



せっかくなので集合写真。すでに足が死んでいたため座っていました…



雲海が広がっています



頂上には神社もあります。あいにくすでに閉まっていますが、頂上の鳥居は凛々しいです
すでに時刻は 16 時を回っています。下山の時間です。



名残惜しいですが、登ってきた登山道を戻り始めます



だんだんと夕日が射し、暗くなってきました



奥の山は何山でしょうか。ごつごつしてまるでボスがいるような…





畳平に到着した時にはすでに夕日がきれいに見えていました



アルプスの山小屋みたいですね



ゲートが閉まる時刻は 18:00。豊平を出た頃には 17:15 を過ぎています。

20km のダウンヒル、果たして間に合うのか??

乗鞍エコーラインには「街灯」などはありません。ガードレールの反射板もほとんど機能していません。

対向車が来ることはないため、自分のフロントライトのみが頼りに…

ですが、私の貧弱なライトでは全く遠くまで照らすことができません。

終始泉田の VOLT に助けられました。

なんとか三本滝のゲートは 17:59 に通過することができました。

駐車場のセレナのもとへ戻り、自転車を車に積みます。

さあ、ここから千葉へ300kmのドライブの再開です。

さすがに補給だけではおなかが空いてしまうため、帰りは諏訪湖の SA に寄りました。



この上ないくらい身に染みる信州そばです。



また諏訪湖 SA から見える諏訪の夜景も最高でした



帰りは白崎さんが東京まで運転してくださりました。
きっとセレナにとっても今までないくらいのハードワークな一日であったと思います。

帰りはそれぞれが終電との戦いに。
しかも西東京、柏、津田沼と住んでいる場所が分かれている以上、最適解がなかなか見つかりません。
最終的には、泉田は調布から自走、白崎さんは八潮からTX、私は八潮経由で津田沼まで帰りました。

最終的に家に着いたのは深夜1時過ぎ。
徐々に強行スケジュールで旅をして、もう大満足でした。



距離:42.4km 獲得標高 1274m (登山区間除く)
ぜひ来年の夏・秋にみなさんも乗鞍エコーライン、そして再開する乗鞍スカイラインにも行ってみてください!

Photo Credits: S. Izumida, D. Shirasaki